

履修と進級・卒業要件

1年次において、40単位以上の単位を取得すること

1年次から2年次に進級するためには、1年次において40単位以上の単位を取得することが必要とされる。

総単位数68単位を取得すること

卒業要件の第1は、卒業までに68単位以上の単位を取得することである。「授業科目配置表」をみるとわかるように、各科目にはそれぞれ4単位、2単位、1単位の単位数が付与されている。科目を選択し、講義を受講し、試験に合格すると、所定の単位が取得できる。

この単位数の総計が、卒業時まで68単位以上必要であるというのが第1の卒業要件である。2年次になると、卒業論文の作成・就職活動などに多くの時間が必要となる。また指定校推薦大学等への編入学には、1年次の成績が考慮されるので、履修科目が極端に少ないと不利になる。さらに、就職時の学長推薦の条件として「1年次で40単位以上の単位の取得」が内規として決められていることから、1年次で可能な限り多くの科目を履修しておくことが望ましい。

なお、単位を取得した科目の再履修はできない。また、取得総単位の上限についての制限はない。

基礎科目8科目、専門科目20科目以上の科目の単位を取得すること

本学に設置されている科目は、「基礎科目」と「専門科目」の2つに分けられる。このうち「基礎科目」は、人文系、社会系、自然系、外国語、キャリア支援、保健体育、公開講座の各分野から構成されている。「専門科目」は、交通、観光、経済・経営・情報、キャリア支援、専門ゼミの5分野に分類されている。

第2の卒業要件は、卒業時まで、この「基礎科目」から8科目以上、「専門科目」から20科目以上の科目の単位を取得するということである。

原則的には「基礎科目」は1年次に配置され、「専門科目」は2年次に配置されている。また1年次は2年次配置の科目を履修できないことになっているため、1年次の履修は「基礎科目」を中心としたものとなる。

前述したように、履修した科目の単位が取得できないことがあるので「余裕をもった履修をする」ということが、1、2年次に共通する履修の要点といえる。特に、4年制大学への編入学を希望している学生は、基礎科目（特に語学、保健体育理論、体育実技）を多めに履修することが望ましい。

2年次配置科目の中から、10科目以上の科目の単位を取得すること

第3の卒業要件として、2年次において、2年次配置科目の中から10科目以上の科目の単位を取得することが課せられる。2年次に1年次配置科目を履修することもできるが、その分はこの要件にはカウントされない。

基礎ゼミ、実務基礎能力論A・B、情報リテラシーA・B、専門ゼミを履修し、その科目の単位を取得すること

第4の卒業要件として、基礎ゼミ、実務基礎能力論A・B、情報リテラシーA・Bを履修し、また、2年次において専門ゼミを履修し、その科目の単位を取得することが課せられる。基礎ゼミ、実務基礎能力論A・B、情報リテラシーA・Bに関しては、いずれもクラス分けが行われ、その内いずれか1つのクラスを履修することになる。

また、専門ゼミは、1年次で学んだことを基礎として、各自がさらに深く学びたい分野について、担当教員から指導を受けるという科目であり、2年次の学生は、必ずいずれか1つのゼミを選択し、その単位を取得することが課せられる。

以上の卒業要件を満たしていれば、各自の履修方針に応じた履修が可能となる。

○CAPIについて

半期に履修できる単位数の上限は原則として30単位とする。ただし、必修科目はこれに含めない。上限を超えて履修したい場合は、自分の所属するゼミ担当教員に相談すること。

○専門ゼミの履修

専門ゼミの履修に関しては、1年次の後期に学生から希望するゼミを募る。具体的な方法については、掲示等によって指示する。

○専門ゼミ発表会

時間・実施内容については掲示する。

この発表会では、2年次生が、卒業論文の題目に沿った発表を行うと共に、各ゼミの担当教員がゼミの説明を行う。日程は、巻末の行事予定を参照のこと。

1年次生は、専門ゼミ発表会に、必ず出席しなければならない。

○専門ゼミ合宿

毎年原則として夏休みに行われる。場所、期間は自由で、ゼミ生の総意で決める。参加者には補助金が支給される。このためゼミで選出された会計係は、その他のゼミ活動の経費の明細と併せ、指定された期日までに事務局に収支を報告する。

○卒業論文

提出された卒業論文は、各ゼミ担当教員の責任の下保管される。

また、各ゼミごとに担当教員が優秀論文を2・3編選び、卒業式までに「学生論文集」を製作する。卒業論文は、原則として、パソコンによって作製されたもの（A4版）を電子ファイルと共に担当教員に提出する。